

熱帯熱マラリアと、予防薬の服用について

【マラリアと熱帯熱マラリア】

マラリアは熱帯に広く分布し、蚊によって人から人にうつる熱病です。マラリアには4種類ありますが、そのなかでも熱帯熱マラリアが放置すると致命的なため重要です。熱帯熱マラリアは、熱帯、特に西アフリカと中央アフリカで流行しています。

症状は、1週間から4週間の潜伏期間の後に、急に38.5℃以上の高熱で発病し、数日持続します。その後体温が上下しているうちに重症化して死に至ります。潜伏期間が長いので、帰国後に発病することもあります。

ただし、乳幼児は症状がはっきりしないことがありますので注意が必要です。2才以下を目安に、高熱が出なくても異常があれば早めの受診が必要です。

早期に抗マラリア薬で治療すれば簡単に治るが、数日放置すると重症化するので、初期の判断が重要です。

【まず現地で調べること、予防すること】

マラリアが流行しているか、何月頃に流行するか、マラリア薬や治療の状況を調べます。一般的に、西アフリカ、中央アフリカでは市街地でも流行しており、他の地域では森林部や辺地で流行しています。

次に、どこの病院で検査できるか、薬局で薬を買うのか、などを調べましょう。

流行地域では、蚊に刺されないように、防虫剤や蚊取り線香などを使いましょう。

【渡航中か渡航後1か月以内に高熱が出たらどうするか？】

38.5℃以上の高熱が急に出て、1日続いたら、マラリアを疑います。5日以内の治療開始が重要です。

検査が可能であれば、まず血液検査をします。西アフリカと中央アフリカで検査ができない場合には、マラリアと考えて治療します。治療は抗マラリア薬の内服です。

5日以上経過すると、脳症を起こして死に至ります。抗マラリア薬の点滴と、集中治療が必要になります。

流行地を離れて1ヶ月以内に高熱が出た場合には、医療機関で、「マラリアの流行地に滞在したのでマラリアの検査と治療をしてほしい」と医師につたえてください。できるだけ専門の病院を受診してください。(表1)

東海地域では、名古屋市立東部医療センターの感染症科が専門になります。

【マラリアの予防薬の服用について】

マラリアの治療薬を少量飲み続けることで予防することができます。かかったときに治療できない僻地に行く場合や、治療できる病院などの状況が分かるまでの間を、予防薬で予防するのが合理的です。予防薬を服用していると発病しないか、かぜのような微熱の症状が出る場合があります。

薬剤名	成人の服用量	副作用など
マラロン® (malaron) 1錠約500円	予防内服 では、毎日1回1錠、流行地に入る1日前から流行地を出た後7日間服用します。 治療 では、1日1回4錠を3日間服用します。	副作用は少ないです。 妊婦、5kg未満の小児、5kg未満の乳児への授乳婦には推奨されません。
メファキン® (mefloquine) 1錠約850円	予防内服 では、毎週1回1錠、流行地に入る1週間前から流行地を出た後4週間服用します。 治療 では、まず2～3錠服用し、6時間後に2錠服用します。体重60kg以上の人はさらに6時間後に1錠服用します。	副作用として、2～3週間頃に、胸やけ、めまい、うつ症状、悪夢を見る、などの症状が出ることもあるので以前服用したことのある人以外は勧めません。また平衡感覚が重要なダイビングや高所作業などは避けてください。
ビブラマイシン® (Doxycycline) 1錠約25円	予防内服 として、毎日1錠、流行地に入る1日前から流行地を出た後4週間服用します。 治療 としては使えません。	副作用として、光線過敏が見られることがあります。8歳未満と妊婦は飲めません。

【その他】

マラリアは、熱が高い割に、本人に重症感が乏しく、「ちょっと休めば治る」と思うことが多いようです。自覚症状で判断するのではなく、体温計で体温を測りましょう。流行地では現地の人でもマラリアにかかりますが、免疫があるため重症化しにくいです。日本人は免疫がないため重症化しやすいです。

表1. 東海・近畿の熱帯病治療薬研究班 薬剤使用機関

長野県立須坂病院 感染制御部	026-245-1650
浜松医療センター 感染症内科	053-453-7111
名古屋市立東部医療センター 感染症科/消化器内科	052-721-7171
富山大学附属病院 感染症科	076-434-7245
奈良県立医科大学附属病院 感染症センター	0744-22-3051
京都市立病院 感染症科	075-311-5311
大阪市立総合医療センター 感染症センター	06-6929-1221
りんくう総合医療センター 感染症センター	072-469-3111



出典：熱帯病治療薬研究班 <http://trop-parasit.jp/HTML/page4.html> 2017/6/1 時点

表2. 小児の予防内服・治療

薬剤名	予防内服	治療(参考)
マラロン®(malaron) 大人用: 1錠約 500 円 直径11mm 小児用: 1錠約 162 円 直径7.5mm	予防内服 では、毎日1回、流行地に入る1日前から流行地を出た後7日間服用します。 体重 5～8kg: 小児用を 0.5 錠 (*) 体重 9～10kg: 小児用を 0.75 錠 (*) 体重 11～20kg: 小児用を 1 錠 体重 21～30kg: 小児用を 2 錠 体重 31～40kg: 小児用を 3 錠 体重 40kg以上と成人: 大人用を 1 錠	治療 には、下記の量を 1 日 1 回 3 日間、食後に服用します。 5～8kg: 小児用を 2 錠 9～10kg: 小児用を 3 錠 11～20kg: 大人用を 1 錠または小児用を 4 錠 21～30kg: 大人用を 2 錠 31～40kg: 大人用を 3 錠 40kg 以上: 大人用を 4 錠

(*) 日本では 10kg 以下の予防内服は未認可だが、米国など海外では一般的に行われている。

6 歳程度以下の小児には錠剤は飲めないなので「服用前に」粉砕して、シロップや、ココア、チョコレートなどに溶かして飲ませます。

マラロンは小さく固いので爪で割るのは難しいです。割ったり粉砕したりするために、「お薬チョッキン」(名鉄病院前の、なの花薬局等にある)などの錠剤用ハサミを持っていくとよいでしょう。あらかじめ粉砕すると日持ちしないので注意。